

博士学位論文（要旨）

2010年9月

アメリカにおける大学情報標準化の研究
—IPEDS、PR、CDS、VSAの動向を中心に—

指導 舘 昭 教授

国際学研究科

国際関係専攻

207K1903

山崎 慎一

目次

序章	1
1 本論の課題	1
2 本論の構成：研究対象、先行研究、研究方法	2
第1章 連邦政府の大学情報：IPEDS	7
1-1 IPEDSの概要と研究方法	7
1-2 大学情報の標準化に至る背景	8
1-3 大学情報の標準化の始まり	10
1-4 アメリカ高等教育におけるHEGISの影響と問題点	13
1-5 IPEDS開発の背景—1980年代のNCES改革—	14
1-6 IPEDSの始まりと新たな問題	16
1-7 現在のIPEDS	20
1-8 IPEDSの意義	22
第2章 州規模の大学情報：Performance Reporting (PR)	24
2-1 Performance Reporting (PR)の概要と研究方法	24
2-2 パフォーマンス指標の流行	25
2-3 パフォーマンス指標に基づく資金配分の問題点	27
2-4 ウェブ調査による近年のPRの分析	29
2-5 PRに用いられている指標の傾向	36
2-6 オハイオ州におけるPR	38
2-7 PRがアメリカ高等教育に与えた影響	43
第3章 市場レベルの大学情報：Common Data Set (CDS)	45
3-1 CDSの概要と研究課題	45
3-2 先行研究及び研究方法	45
3-3 CDSの関与団体と質問項目	46
3-4 CDS開発の背景	52
3-5 CDS作成に向けた合意形成過程	57
3-6 CDSの現在と問題点	64
3-7 CDSの普及した要因	65
第4章 州立大学の大学情報：Voluntary System of Accountability (VSA)	67
4-1 VSAの概要と研究方法	67
4-2 問題の背景	68
4-3 VSAと州立大学団体	69
4-4 College Portraitの構成と特徴	70
4-5 VSAの今後の展開	75

終章 アメリカにおける大学情報標準化の現況と展望	78
おわりに	82
謝辞	84
注・参考文献	85
図表リスト	92
資料1 McCarty 氏提供資料の一覧	i
資料2 Common Data Set 和訳版 (2006-07 年版)	iii
資料3 PR の分析に利用したレポート一覧表	xlix
資料4 英語名称略語リスト	1

論文要旨

1. 問題意識

高等教育の質とアカウンタビリティーの向上は、今後の高等教育の発展において欠かせないテーマである。日本においても、こうした傾向は例外ではなく、高等教育の質を向上させるとともに、アカウンタビリティーを果たすことは、重要な課題である。1991年の大学設置基準の大綱化と、それにもなう大学の自己点検自己評価の導入以降、大学情報の重要性は高まっている。2007年には、学校教育法の改正によって、教育研究活動に関する情報の公開が規定され、大学における情報公開は欠かせない取り組みになった。しかし、大学による積極的な大学情報の公開に関わらず、社会からのアカウンタビリティーを求める声は、近年更に高まっている。その理由のひとつには、明確な用語の定義付けに基づく、大学情報の標準化が十分になされておらず、大学情報が氾濫状態となっていることが挙げられる。例えば、学校基本調査等で用いられている「学生」という用語について、学校教育法の規定と異なる意味で利用されているという指摘がある（館2007）。これは、大学情報も含め、日本の教育統計の収集において、中核的な役割を持つ学校基本調査でさえも、用語の定義付けが十分に行われていないことを示している。

本論文では、大学情報の標準化を、「全ての人々が大学情報に対して共通の認識を持てるように、明確に定義された用語に基づく情報を作成すること」と定義している。大学情報の標準化は、様々な情報の相互活用が可能となる環境を構築し、情報の質を向上させるとともに、その氾濫を防ぐことが出来る取り組みである。

2. 研究目的と対象

高等教育の分野において、日本をはじめ世界に影響を与えているアメリカでは、1960年代からこうした問題に直面していた。連邦政府及び高等教育関係者は、正確な大学情報の収集・公開のために、明確な用語の定義付けに基づく大学情報の標準化を試みている。本論文では、以下の4項目を研究対象とした。

- (1) Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS)
- (2) Performance Reporting (PR)
- (3) Common Data Set (CDS)
- (4) Voluntary System of Accountability (VSA)

Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS) は、アメリカ教育省の National Center for Educational Statistics (NCES) によって運用されている中等後教育機関の情報を収集するためのシステムである。IPEDS を用いて集められた情報は、連邦政府による高等教育政策の立案のみならず、州政府、教育関連団体、産業界、メディアなどによって、様々な用途に利用されている。IPEDS の中で使用されている用語には、明確な定義が付与されている。これは、学士課程や授業料のような基本的な用語から、高等教育関連法規まで、500 近くの用語に及んでいる。用語の定義に基づき、全米レベルの大学情報の標準化した IPEDS は、アメリカにおける大学情報のコアといえる役割を果たしている。

Performance Reporting (PR) は、各州の高等教育管理・調整委員会が、卒業率などの大学の

パフォーマンスを示す指標を用い、州レベルにおいて大学情報を公開する取り組みである。主に州知事や州議会を対象に、大学のパフォーマンスを示すことによって、アカウンタビリティを果たすとともに、データに基づく大学の質の向上を目的としている。1990年代中ごろから各州に採用されはじめ、2000年以降には40州以上がPRを実施するに至っており、全米に広がっている取り組みである。PRは

Common Data Set (CDS) は、主に大学ガイドやランキングを発行する出版社が、大学の基礎的な情報を収集するための標準化されたデータフォーマットである。1996年に開発され、その特徴は、大学ガイドやランキングを利用する学生やその保護者にとって、最も重要な大学情報を厳選していることである。また、用語の定義についても、IPEDSに利用されている用語の定義を基盤に、CDSに用いる139の用語の定義集を用意している。これにより、出版社へ提供する大学情報の質の向上だけでなく、大学側の情報提供の負担も軽減されている。CDSは、基本的には出版社が情報収集のために用いているが、現在は連邦政府による大学情報の収集と関連付けられるなど、全米規模で使用されているデータフォーマットとなっている。

Voluntary System of Accountability (VSA) は、アメリカの2大州立大学団体を中心に、2007年11月から始まった試みである。その主要な取り組みはCollege Portrait (CP) である。CPは、CDSと同じく標準化されたフォーマットを用いているが、特徴は、各大学が作成・公開を行うことと、学生の経験や活動、あるいは学生の学習成果に関する指標が含まれていることである。VSAは、開始してから日が浅く十分に浸透しているわけではない。しかし、VSAの取り組みの私立大学版であるUniversity & College Accountability Network (U-CAN) (私立大学アカウンタビリティネットワーク) が、私立大学協会を中心に始まっている。また、コミュニティーカレッジの団体も同様の取り組み検討しており、今後全米的な取り組みになることが予想されるものである。

IPEDSは連邦政府、PRは州の高等教育管理・調整委員会、CDSは出版社などの市場、VSAは州立大学と、それぞれ異なる組織による大学情報の標準化の取り組みだが、その目的は、いずれも正確な大学情報に基づく、高等教育の質とアカウンタビリティの向上である。本研究では、これらのアメリカにおける大学情報の標準化の取り組みについて、それぞれの発展過程から現在までの動向を分析し、大学情報の標準化のプロセスとともに、高等教育に対する効果を明らかにする。

3. 先行研究

IPEDSによって収集されたデータに基づく、調査研究は数多く見られるが、IPEDS自体を研究対象とした研究論文は数少ない。しかし、IPEDSの運用機関であるNCESを中心に、IPEDS改革の際に、連邦政府における大学情報の収集・公開に関するレビューを実施している(Vinovskis 1998、Peng, Korb, Rose et al. 1999)。日本では、小林(2003)、井田(2005)によって、IPEDSの概要が紹介されている。

PRについては、Joseph C. Burkeらによる研究成果が、本分野における代表的な先行研究である(Burke and Minassians 2002,2003)。Burkeらは、PRの定義付けを行うとともに、全米規模のPRの実施状況調査から、利用されている指標の分析・分類を試み、これは各州のPRの取り組みにも影響を与えている。また、この調査結果を含めたPR研究の成果の一部は、日本にお

いても、大学評価・学位授与機構の学会誌を通じて公開されている Burke 2003)。

CDS の先行研究は、CDS の取り組みを運営する関係者らと、筆者とのメールのやりとりから、研究論文が存在しないことが明らかになった。現在も、CDS を研究対象とした論文は、教育学文献データベースである Educational Resources Information Center (ERIC) を用いた検索からも見当たらない。しかし、CDS 開発の議論において、中心的な役割を果たした Arthur J. Rothkopf を通じ、非公開の資料を含めた会議記録や、CDS 開発に携わった人々によるメールの交信記録を入手している。

VSA は、2006 年に始まった取り組みのため、まだ研究成果が発表される段階ではなく、議論の過程を示した会議記録や報告書は見られる程度である。従って、VSA の開始までの過程から、現状分析、問題点の整理はなされているが、研究対象までには至っていない状況にある。それぞれに対する先行研究や会議記録、報告書などは見られるが、大学情報の標準化という枠組みにおいて、これらを総合的に論じている文献は見当たらない。IPEDS、PR、CDS、VSA の実施機関はそれぞれ異なっているが、標準化された大学情報を用いる共通点を持ち、相互に影響を与えている事例も見られる。大学情報の標準化の重要性と意義を明らかにするにおいて、包括的な検証が必要である。

4. 研究方法

本研究では、それぞれの情報収集・公開のシステムについて、現状の考察を試みるとともに、発展プロセスの議論や動向に焦点をあてている。

IPEDS の研究では、連邦政府における大学情報の収集の原点から、IPEDS に至るまでの過程、現状までを考察する。IPEDS は 1986 年から始まっているが、連邦政府における大学情報の標準化自体は、1966 年の Higher Education General Information Survey (HEGIS) より開始している。HEGIS は、IPEDS の前身に当たるシステムである。大学情報の標準化に至る背景を、連邦政府による教育統計と大学情報の収集の草創期から、1950～60 年代のアメリカ高等教育と連邦政府の関係の変化から示す。そして、IPEDS 開発の背景として、大学情報の標準化の取り組みである HEGIS の開発と発展のための議論を、会議記録や報告書から考察する。同時に、大学情報を含め、あらゆる教育統計を扱う NCES についても論じ、IPEDS を運用する機関の変化が、どのように大学情報の収集・公開に影響を与えるかを調査し、IPEDS の現状とともに述べる。

PR は、すでに Burke らによる全米規模の調査研究が存在するため、はじめに先行研究のレビューを行う。この全米規模の調査は、2003 年以降行われていないが、高等教育のアカウントビリティの議論は、今もなお大きな課題であることから、大学のパフォーマンスを示す取り組みである PR も、更なる発展が予測される。本研究では、各州が現在公開している PR の動向を調査し、先行研究との比較とともに、現状を明らかにする。PR は、高等教育のアカウントビリティの向上を、主な目的としているため、多くのレポートはインターネット上に公開され、誰でも閲覧することが可能である。従って、インターネットを用い、各州の PR を収集し、分析を試みる。また、各州の PR が、実際にどのように開発され、実施に至っているかを考察するために、オハイオ州の PR を事例研究の対象とする。オハイオ州の PR は、当該分野の中心人物のひとりである Burke によって、優れた取り組みと評価されるなど、注目を集めているものである。総合的な PR の考察とともに、オハイオ州の事例を分析することによって、州規模の大学情報の標準化がど

のように進展しているかを明らかにする。

CDS は、先に述べたように、先行研究は見当たらないが、会議主催者を通じて、非公開の資料を含めた会議記録の提供を受けている。会議記録の考察を通じて、市場レベルにおける大学情報の標準化が始まる背景から、その合意形成に至る過程を詳細に分析する。更に、開発された CDS の高等教育におけるインパクトから、現在の役割を明らかにする。IPEDS や PR と異なり、CDS を用いて収集された大学情報は、大学ガイドやランキングという出版物を通じて、大学進学を目指す人々やその家族への情報に特化している。高等教育のアカウントビリティーの向上において、最も重要な対象である学生や保護者向けの情報は、日本の高等教育にとっても参考に出来る点が多いと推測出来る。従って、CDS の考察に加え、実際に大学情報の収集に用いている CDS のデータフォーマットの全訳を試みている。

VSA は、上記 3 つの情報収集・公開システムと異なり、2000 年以降に始まった新しい取り組みである。はじめに、VSA の構築のための会議記録やレポートの考察を通じて、2000 年以降から現在のアメリカ高等教育における質とアカウントビリティーの向上に関する議論を整理する。そして、VSA の中心的な取り組みである College Portrait (CP) を分析し、過去の高等教育の質とアカウントビリティーの向上のための取り組みとの相違点を明らかにする。

5. 研究結果

・ Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS)

アメリカにおける大学情報の標準化は、1966 年の HEGIS によって始まった。これは、高等教育法の施行、連邦政府による奨学金の増加、NCES の創設など、連邦政府と高等教育の関係の変化とともに生じている。HEGIS の開発以降、100 人以上の高等教育関係者を中心に、継続的な改善の議論が行われ、この議論を基盤に IPEDS は成り立っている。IPEDS もまた、高等教育界や社会の要望を受け、改善を繰り返し、今やアメリカにおいてなくてはならないシステムになっている。また、教育統計を扱う部局である NCES の人的・予算的規模の拡大も、IPEDS 拡大に大きく影響している。連邦政府による大学情報の標準化は、政策立案能力の向上だけでなく、高等教育研究の発展を導き、更には連邦政府以外の組織による情報収集・公開の取り組みが、積極的になされるようになり、大学情報の質だけでなく、高等教育自体の向上に貢献していることが明らかになった。

本論文において研究対象とした PR や CDS の始まりは、パフォーマンス指標の流行や、情報処理技術の向上など、様々な要因が見られるが、基盤となっていたのは IPEDS である。全米レベルのシステムにおける用語の定義付けと大学情報の標準化は、大学情報の質を向上するとともに、様々な機関が相互に情報を活用しやすい環境を構築した。IPEDS は、アメリカにおける大学情報収集・公開システムのコアである。アメリカ高等教育の質とアカウントビリティーの向上において、重要な役割を果たしており、今後更にその重要性は高まっていくだろう。

・ Performance Reporting (PR)

PR は、アメリカでは必ずしも好意的に受け止められておらず、アカウントビリティーの向上に貢献していないという批判的な意見もある。しかし、本研究において実行したウェブ調査から、今も多くの州が PR を実施していることが明らかとなった。レポートの分量、対象、用いている

指標など、各州が独自の問題意識を持って作成し、標準化された情報を基盤に、州内の高等教育の状況を報告している。また、レポートの傾向を、現状報告型と、目標設定型の2つのタイプに分類することが出来た。この分類によって、大学のパフォーマンスや成果の評価において、具体的な目標値を設定する傾向が見られるが、目的設定を試みるレポートほど、その指標はアウトカムではなく、インプットに偏ることが明らかになっている。当該分野の先行研究である Burke 調査との比較の結果からは、PR に利用されている主な指標は、依然として卒業率/リテンション率や研究資金の獲得、卒業率、奨学金が中心のだが、新入生の在籍や補習教育の状況、共通テストのスコアなど、新入生に焦点をあてた指標が目立つようになっていた。教職員に関する項目は、PR において取り入れられなくなっている傾向も明らかになった。

オハイオ州の事例からは、PR は高等教育関係者を中心とした継続的な議論によって、その内容が発展していることが明らかになった。レポートに利用されている指標は、IPEDS の中ですでに収集されているものも多いが、その一方で州の課題や問題意識に沿った指標も取り入れ、PR の独自性を維持している。PR を公開することだけで、高等教育の質とアカウントビリティーがすぐに向上するわけではないが、州民に対する情報公開は、多くの税金を投入している高等教育機関にとって、当然行われるべき活動である。また、PR を継続的に実施することによって、データの蓄積とともに、大学のパフォーマンスを示す指標の議論が発展を遂げ、結果的に大学のアカウントビリティー能力を促していることが示された。パフォーマンス指標の追加や削減が見られるが、基盤的な情報が標準化されつつある一方で、新たな指標も取り入れられている。

本調査においては、PR に利用されている指標を詳細に分類するには至らなかったが、PR の全体的な傾向とオハイオ州の事例の分析から、パフォーマンス指標の新たな追加や削減とともに、基盤となる指標の大学情報は標準化が進んでいることが明らかになった。

・ Common Data Set (CDS)

CDS は、大学ガイドやランキングのような市場からの影響を受け、その取り組みが始まった。高等教育界の大学ランキングに対する批判は根強く、その質や必要性に疑問を抱いていた。しかし、CDS の開発は、高等教育界がランキングの問題から目を背けるのではなく、アカウントビリティーの向上と、大学側の情報提供の負担を減少させるという目的を持って、積極的に関与することによって始まった。その議論は、2つの段階に分けられる。初めの議論では、大学の学長、大学ランキング出版者や高等教育専門職団体の幹部など、各機関の長が集まり、問題点の整理とともに、問題解決のための合意の形成が得られている。そして、この合意形成をもとに、実際に大学情報を扱う大学や専門職団体の職員、出版社の社員、NCES の担当者らが集まり、データフォーマット構築の具体的な議論が展開された。その結果、CDS は、2003 年の高等教育法改正の提案において、大学のアカウントビリティーを向上させた取り組みとして評価され、全米レベルの大学情報ツールとなった。

現在においても、CDS は発展を続け、多くの専門家による用語の定義を含めた内容のレビューを毎年実施し、その質の向上に取り組んでいる。CDS 拡大の背景には、CDS が市場向けの情報に特化していることが挙げられる。大学ガイドやランキングの出版社にとって、顧客である学生やその保護者は、大学にとってもアカウントビリティーを果たすべき重要な対象であり、質の高い情報が求められている分野であった。IPEDS によって収集される情報を基盤に、市場向けの大

学情報の標準化を行った CDS は、様々な利害関係者による合意形成の過程を経て作られ、これは大学側と市場側の双方の質とともに、高等教育のアカウンタビリティ能力の向上に貢献している。

・ Voluntary System of Accountability (VSA)

VSA は、発展途上の取り組みであり、多くの課題が残されている。しかし、CDS の議論からも分かるように、大学は比較やランク付けには否定的な立場をとり続けているにも関わらず、各大学が率先して、比較可能な標準化されたデータフォーマットである College Portrait (CP) を作成することは、高等教育界の情報提供に対する姿勢の変化を示している。大学における学生の経験や成果を示す指標は、十分に標準化がされておらず、CP を作成する全ての大学が参加しているわけではない。しかし、大学情報の標準化による各大学の比較を促すことが、高等教育の質とアカウンタビリティの向上に資することは、共通認識になっていることが明らかになった。VSA の関係者は、現在の CP が不十分なものと認識しており、これから議論を経て発展していくものと考えている。本研究において、対象としてきた大学情報の標準化の取り組みは、いずれも継続的な議論によって現在まで発展してきた。VSA においても、継続的な議論のもと、大学における学生の成長や成果の指標に関する問題が解決する可能性がある。これらの指標が、多くの人々の合意を経て標準化されたとすれば、日本のみならず、世界の高等教育に影響を与えるだろう。

6. まとめ

IPEDS、PR、CDS、VSA の考察を通じて、連邦政府、州、市場、州立大学というそれぞれ異なる立場による大学情報の標準化の動向を明らかにした。これらの動向の総合的な考察から明らかになったことは、以下のとおりである。

- ・ 大学情報の標準化は、大学情報に関わるあらゆる人々の負担を軽減し、高等教育のアカウンタビリティと質の向上に重要な役割を果たしている
- ・ 用語の定義と大学情報の標準化は、高等教育関係者を中心に多くの人員を必要とし、同時に時間を要する作業である
- ・ 連邦政府によって作られた大学情報は、他の機関による大学情報の収集・分析の発展の基礎になっている
- ・ 大学情報に対するニーズは、社会の変化とともに変わるため、継続的な議論の場が必要である
- ・ 高等教育に直接関係する者だけでなく、様々な利害関係者が、大学情報の構築の議論に参加する必要がある
- ・ 大学情報の公開・収集の取り組みに対する高等教育界の積極的な関わりは、大学情報の質の向上に欠かせないものである。

アメリカにおける大学情報の標準化は、高等教育の改革期である 1960 年代から始まった。以来、連邦政府による標準化された大学情報は、アメリカ高等教育における大学情報の収集・公開において、中心的な役割を果たし続けている。1990 年代のアカウンタビリティを求める声の高まりと、情報技術の発展は、IPEDS によって収集された大学情報を基盤に、様々な機関が自らの

目的に沿った情報を加え、広範なアカウントビリティーの要求に応えることを可能にした。こうした取り組みにも関わらず、アメリカは今もなお、高等教育の質とアカウントビリティーの向上の課題に直面している。大学生の成長や成果に焦点をあてた、新たな大学情報の標準化の取り組みである VSA が近年始まったが、この問題を解決出来るかは定かでない。しかし、HEGIS から始まった大学情報の標準化の取り組みは、アメリカ高等教育の発展とともに、着実に進歩を遂げていることは明らかである。

日本では、全ての高等教育機関が大学評価を行うようになり、国立大学法人では、評価結果に基づく資金の配分も始まった。大学評価の発展とともに、大学情報に対する関心度も高まり、大学情報を専門に扱う部局を設置する大学も表れている。しかし、その一方で、基盤的な大学情報収集ツールである学校基本調査でさえも、用語の定義が不十分であることはすでに明らかになり、大学情報の標準化がされずに、情報が氾濫していく状況にある。今後、学習成果の評価の議論や研究が進展すると予想され、必要とされる大学情報は更に多くなる。また、国際的な高等教育の評価が行われれば、用語の定義がされていなければ、正確な高等教育の状況进行评估することは困難になるだろう。幸いなことに、自己点検評価が開始して 15 年近くが経過し、大学評価は特別な作業ではなく、大学情報の収集・公開は日常的に行われている。

本論文は、アメリカにおける大学情報の標準化の動向に焦点をあてているため、PR に用いられていた指標の分類を含め、実際にどのようなデータが使われているかについては、十分に言及出来ていない。しかし、大学情報の標準化の意義、標準化と更なる改善のための過程を、IPEDS、PR、CDS、VSA を事例に示すことが出来た。日本の高等教育の質とアカウントビリティーの向上のために、大学情報の標準化が模索され、本論がその議論の基礎になることを望んでいる。

参考文献

[和文]

- 井田正明, 2005, 「米国における高等教育情報収集の事例」, 『大学評価・学位研究』3: 67-73.
- 奥井正樹, 2007, 「国立大学法人における大学情報システムの構築成果と課題」, 『大学教育実践ジャーナル』5: 15-25.
- 川嶋太津夫, 2008, 「ラーニング・アウトカムズを重視した大学教育改革の国際的動向と我が国への示唆」『名古屋高等教育研究』8: 173-91.
- 小池昌明, 1998, 「米国の『政府の効果及び業績に関する法律』について」, 『会計検査研究』18: 63-70.
- 喜多村和之, 1994, 『現代アメリカ高等教育論—1960年代から1990年代へ』, 東信堂.
- 小林雅之, 2003, 「海外の大学情報データベースと日本の可能性」, 『大学評価・学位授与機構研究紀要』3: 51-64.
- 財政制度審議会, 2000, 『財政構造改革特別部会海外調査報告』, 財政制度審議会.
- 鋤柄光明, 2005, 「大学評価の歴史性・地域性—アメリカ地域別大学基準協会東西比較」, 『アルカディア学報』, (<http://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/arcadia/0200.html> 2010.04.1)
- 梶山正弘, 1985, 「スプートニク・ショックとアメリカの高等教育政策」, 『大学論集』14: 273-87.
- 館昭, 2007, 『改めて「大学制度とは何か」を問う』, 東信堂.
- 鳥居朋子, 2005, 「大学におけるインスティテューショナル・リサーチの実効性に関する考察—米国及び豪州の事例を手がかりに—」, 『名古屋高等教育研究紀要』5: 185-203.
- 星千枝・鈴木尚子, 2006, 「社会人に求められる能力の育成とアセスメント」『BERD』16: 48-56.
- 山崎博敏, 2004, 「大学における教育研究活動のパフォーマンス・インジケータの開発」, 『平成13-15年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究課題番号13610302研究成果報告書』
- 山田礼子, 2009, 『大学教育を科学する: 学生の教育評価の国際比較』, 東信堂.
- 吉田香奈, 2007a, 「アメリカ州政府による大学評価と資金配分」, 『大学財務経営研究』4: 113-129.
- 吉田香奈, 2007b, 「アメリカの大学における評価と資源配分」, 『COE研究シリーズ』28: 91-118.
- 渡辺航, 2003, 「クリントン政権期の行政改革—結果重視の政府への変革—」, 『久保文明研究会2003年度卒業論文集』: 477-91.

[欧文]

- Airgood, Glenn, 1995, “*Lafayette Rankings Forum Creates Two Groups to Standardize Data and Verify Data Accuracy*”, Lafayette College.
- American Association of State Colleges and Universities (AASCU), 2009, *Who We Are*, AASCU. (<http://www.aascu.org/association/members/index.htm>, 2009.9.29.)
- American Association of State Colleges and Universities (AASCU) and Association of Public and Land-grant Universities (APLU), 2009a, *Printable List of VSA Participants, AASCU and APLU*. (<http://www.voluntarysystem.org/index.cfm?page=templates,2009.9.28.>)
- American Association of State Colleges and Universities (AASCU) and Association of Public and Land-grant Universities (APLU), 2009b, “Overview of College Portrait”, AASCU and

APLU.

- Andrew, Loyd D., 1980, *“Analysis of uses of HEGIS data”*, National Center for Education Statistics.
- Association for Institutional Research, 1997, “The Common Data Set” *AIR Alert*. (<http://www.airweb.org/page.asp?page=102> 2007.2.4)
- Association of Public and Land-grant Universities (APLU), 2009a, “Association of Public and Land-grant Universities (A · P · L · U) Name Rolls Out”, *A · P · L · U News*. (<http://www.aplu.org/NetCommunity/Page.aspx?pid=1200> 2009.10.1.)
- Association of Public and Land-grant Universities (APLU), 2009b, “Land-Grant University Association Adopts New Name: Association of Public and Land-grant Universities (APLU)”, *A · P · L · U News*. (<http://www.aplu.org/NetCommunity/Page.aspx?pid=1200> 2009.10.1.)
- Bell, T. H., 1974, “The Federal Role in Higher Education”, *Speech presented at the Conference for Journalists on the Crisis in Higher Education*, 1974.9.17
- Bender, Thomas and Smith, Wilson, 2008, *American Higher Education Transformed 1940-2005*, Baltimore: The Johns Hopkins University Press.
- Beno, Barbara A., 2006, *“Letter of Support for VSA from Regional Accreditors”*, Council of Regional Accrediting Commissions.
- Boggs, George R., 2009, “Accountability and Advocacy: A national framework for measuring community colleges”, *Community College Journal*, February/March: 9-11.
- Broyles, Susan G., 1994, *“Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS) ”*, National Center for Education Statistics.
- Broyles, Susan G., 1995, *“IPEDS Glossary”*, National Center for Education Statistics.
- Burke, Joseph C., 2003a, “The New Accountability for Public Higher Education: From Regulation to Results”, 『大学評価』 3 : 67-85.
- Burke, Joseph C., 2003b, “The New Accountability for Public Higher Education: From Regulation to Results”, 『大学評価』 3 : 89-112 (=2003, 林隆之訳, 『公立高等教育の新たな説明責任—規制志向から結果志向への転換—』 大学評価・学位授与機構)
- Burke, Joseph C. and Associates, 2002, *Funding Public Colleges and Universities for Performance-Popularity, Problems, and Prospects*, New York: Rockefeller Institute Press.
- Burke, Joseph C. and Minassians, Henrik, 2002, “Reporting Higher Education Results: Missing Links in the Performance Chain”, *New Directions For Institutional Research*, 116.
- Burke, Joseph C. and Minassians, Henrik, 2003, *“Performance Reporting: “Real” Accountability or Accountability “Lite” Seventh Annual Survey 2003”*, Rockefeller Institute of Government.
- Carey, Kevin. 2007, “Truth With-The Myth of Higher Education Accountability-“, *Change Spetember/October* : 24-29.
- Christal E. Melodie, 1985, *“Problems Found in Using HEGIS Data”*, Association for

- Institutional Research.
- College Board, 1996, *“Common Data Set Meeting”*, College Board.
- College Board and Wintergreen/Orchard House, 1996, *“Proposed Common Data Set Preliminary Draft”*, College Board.
- Dorfman, William, 1974, *“Projects, Products, and Services of the National Center for Education Statistics (NCES)”*, NCES.
- Elliott, Emerson J., 1989, “New Directions and Initiatives at NCES: Implications for Educational Research, Policy, and Practice”, *Educational Researcher*; 18 (3): 11-6
- Flattau, E. Pamela, Bracken, Jerome, Atta V. Richard et al., 2006, *“The National Defense Education Act of 1958: Selected Outcomes”*, Institute for Defense Analyses Science & Technology Policy Institute.
- Gernand, Renee, Sauermelch, Stephen, and Morse, Robert, 2006, *“A Common Data Set Update: Get the Lowdown on the Year Ahead”* 2006 Association for Institutional Research Annual Meeting.
- Gold, Steven D. 1995, *“The Fiscal Crisis of the States: Lessons for the Future”*, Washington, DC: Georgetown University Press.
- Inter-university Consortium for Political and Social Research (ICPSR), 2005, *“Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS): Earned Degrees 1986-1987~1995-96 (除 : 1989-90)”*, ICPSR.
- Hawkins, David and Lautz, Jessica, 2005, *State of College Admission*, National Association for College Admission Counseling.
- Higher Education Research Institute (HERI), 2009, *“College Senior Survey (CSS)”*, California State University. (<http://www.heri.ucla.edu/cssoverview.php>, 2009.10.1.)
- Indiana University Center for Postsecondary Research (IUCPR), 2007, *“CSEQ: At a Glance”*, Indiana University. (http://cseq.iub.edu/cseq_glance.cfm, 2009.10.5.)
- Indiana University Center for Postsecondary Research (IUCPR), 2008, *“2009 Invitation to Participate”*, Indiana University.
- Keller, Christine M. and Hammang, John M., 2008, “The Voluntary System of Accountability for Accountability and Institutional Assessment”, Borden, M. H. and Pike, Gary R. eds., *Assessing and Accounting for Student Learning: Beyond the Spellings Commission*, Supplement: 39-48.
- Kinzie, Jilian (江原昭博訳), 2007, 「米国の高等教育における学生調査とIRの拡大する役割」, 『平成16-18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究課題番号16330168研究成果報告書』: 149-64.
- Lafayette College, 1995, *“A Forum on the Ranking of Colleges & Universities”*, Lafayette College
- Levine, Daniel B., 1986, *“Creating a Center for Education Statistics: A Time for Action”*, National Academy of Science .
- Machung, Anne, 1994, *“College Guide Surveys and the Information Revolution: Issues and Consequences”*, 1994 Association for Institutional Research Forum.

- Machung, Anne, 1995, "Managing the Information Overload: The Case for a Standard Survey Response", *New Directions For Institutional Research*, 88 : 61-72
- McPherson, Peter and Shulenburg, David, 2006, "Toward a Voluntary System of Accountability Program (VSA) For Public Universities and Colleges", National Association of State Universities and Land-Grant Colleges.
- Miller, Margaret A., 2008, "The Voluntary System of Accountability: Origins and Purposes an Interview with George Mehaffy and David Shulenberg," *Change*, (<http://www.changemag.org/Archives/Back%20Issues/July-August%202008/full-interview-mehaffy-shulenberg.html>, 2009.9.20.)
- Morse, Robert, 2006, "How the Rankings Work", *U.S. News & World Report*, 2006.8.26, 109.
- National Center for Education Statistics (NCES), 1971, "Annual Conference on Higher Education General Information Survey (HEGIS) (7th)", NCES.
- National Center for Education Statistics (NCES), 2004, "Summary of Comments on the Report and Suggestions from the IPEDS Technical Review Panels #2, 3 and 5", NCES. (<http://nces.ed.gov/ipeds/trp235changes.asp> 2007.2.4)
- National Center for Education Statistics (NCES), 2009, "The Condition of Education 2009", Department of Education.
- National Center for Education Statistics (NCES), 2010, "About IPEDS", NCES. (<http://nces.ed.gov/ipeds/about/> 2010.3.4)
- National Science Foundation (NSF), 2009, "R&D expenditures at universities and colleges, by source of funds: FY 1953-2007", NSF.
- National Student Clearinghouse (NSC), 2008a, "How the Clearinghouse Can Help You", NSC.
- National Student Clearinghouse (NSC), 2008b, "the Clearinghouse Record", NSC.
- Ohio Board of Regent, 2001, "Ohio Colleges and Universities 2001: Profile of Student Outcomes, Experiences and Campus Measures", Ohio Board of Regent.
- Peng, Samuel S. and Korb, Roslyn A., 1989, "Using National Data Bases in Analyzing the Institutional Impacts of Student Aid", in R. H. Fenske (ed.), *Studying the Impact of Student Aid on Institutions, New Directions for Institutional Research*, 62:75-87.
- Peng, Samuel S., Korb, Roslyn A., Rose, Joseph, Snyder, Thomas D. and Cohen, Michael P., 1999, "Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS) : An Improved System" NCES Taskforce for IPEDS Redesign.
- Ristine, Jeff, 1995, "Rankings of 'best' colleges debated here, *The San Diego Union Tribune*, November 11.
- Rothkopf, Arthur, 1995, "Devising Better Ways to Measure the Quality of Colleges and Universities", *Chronicle of Higher Education*, July 14.
- Rothkopf, Arthur, 1996, "College rankings: Increasing Accuracy, Improve Accountability", *Chronicle of Higher Education*, September 27.
- Russ-Eft, Darlene F. and Brandt, David A., 1982, "Error Profile of Selected Statistics in the Fall Enrollment Survey of the Higher Education General Information Survey (HEGIS)",

- National Center for Education Statistics.
- Saupe, Joe, 1993, *"The Function of Institutional Research 2nd Edition"*, Association for Institutional Research (<http://www.airweb.org/?page=85> 2006.12.25)
- Schmidt, Peter, 2004, "Report Card' Spurs Calls for Change in Academe", *Chronicle of Higher Education*, September 24. (<http://chronicle.com/article/Report-Card-Spurs-Calls-for/16054/> 2009.11.4)
- Schmidt, Peter, 2009, "Liberal-Education Group Discourages Reliance on Tests to Hold Colleges Accountable " *The Chronicle of Higher Education*, January 7, (<http://chronicle.com/article/Liberal-Education-Group-Dis/42196/>, 2009.10.1.)
- Schuh, H. John, 2002, "The Integrated Postsecondary Education Data System", *New Directions for Higher Education*, Vol.118: 29-38
- State Higher Education Executive Officers (SHEEO), 2005, "Accountability for Better Results-A National Imperative for Higher Education", *Report on the National Commission on Accountability in Higher Education*. (<http://www.sheeo.org/Accountability.pdf>, 2009.10.21.)
- Stecklow, Steve, 1995, "Cheat Sheets: Colleges Inflate SATs and Graduation Rates in Popular Guidebooks", *Wall Street Journal*, 1995.April 5.
- Stecklow, Steve, 1996, "Educators Aim To Standardize College Ratings", *Wall Street Journal*, September 24.
- Taft, Bob, 1999, *"Governor Bob Taft's request for a Higher Education Performance Report"*, Ohio Board of Regents.
- University of California, 2005, *"An Enrollment issues Handbook"*, University of California. (<http://www.ucop.edu/planning/enrollmenthandbook2005.pdf> 2006.12.23)
- University of California Office of the President, 2006, *"History of UCUES"*. University of California (<http://www.universityofcalifornia.edu/studentsurvey/about/history.html>, 2009.10.8.)
- U.S. Chamber of Commerce, "Arthur J. Rothkopf", U.S. Chamber of Commerce. (<http://www.uschamber.com/about/management/rothkopf.htm> 2006.12.23)
- U. S. Department of Education, 2006, "A Test of Leadership: Charting the Future of U. S. Higher Education", *A Report of the Commission Appointed by Secretary of Education Margaret Spellings*. (<http://www.ed.gov/about/bdscomm/list/hiedfuture/reports/final-report.pdf>, 2008.12.27.)
- U. S. News & World Report, 2006, "How U.S. News ranks colleges", U. S. News & World Report. (http://www.usnews.com/usnews/edu/college/rankings/about/cofaq_brief.php#top 2006.12.23)
- Vinovskis, Maris A., 1998, *"Changing Federal Strategies for Supporting Educational Research, Development, and Statistics"*National Educational Research Policy and Priorities Board.
- Voluntary System of Accountability, 2008, *"Participation Agreement"*, VSA.
- Voluntary System of Accountability, 2009, *"About VSA"*, VSA. (<http://www.voluntarysys>

tem.org/index.cfm?page=about_vsa, 2009.9.10.)

Wiedeman, Reeves, 2008, “2 Higher-Ed Groups Expand Web Site With Accountability Data”, *The Chronicle of Higher Education*, September 29, (<http://chronicle.com/article/2-Higher-Ed-Groups-Expand-W/1196/>, 2009.10.1.)